

令和7年度 第60回盛岡市教育研究所研究発表大会

令和8年1月6日（火）

都南公民館 キャラホール

小中学校におけるICT活用に関する研究 ～個別最適な学びと協働的な学び×ICTの活用～

盛岡市教育研究所

専門研究員 佐々木 秀一

syu1-s@outlook.jp



【本日の内容】

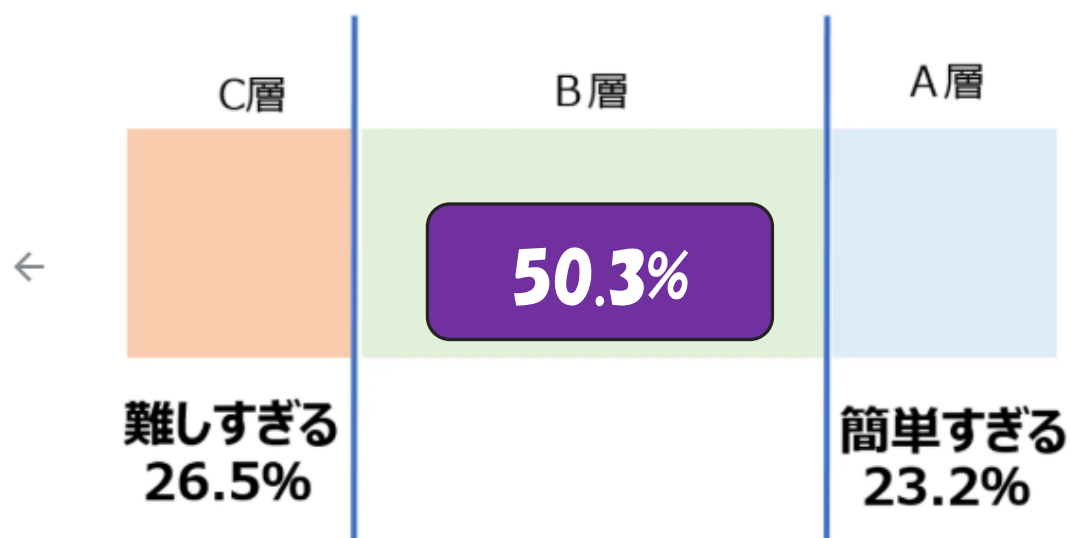
- 研究の背景と目的
- 実践発表
 - ◆ 盛岡市立仁王小学校の実践
 - ◆ 盛岡市立下橋中学校の実践
- 実践紹介
- 座談会から
- まとめと考察

【背景】

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の意義

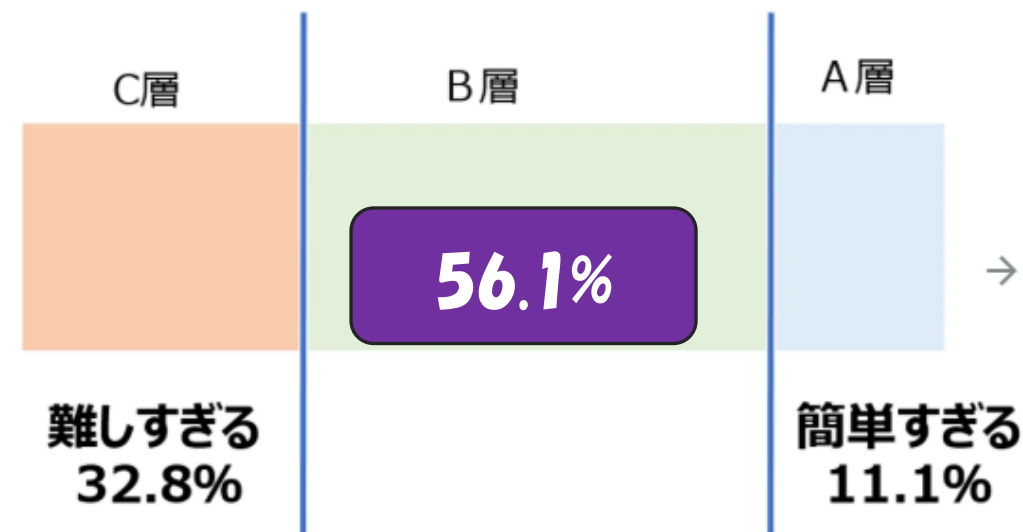
授業の理解度には大きな差がある

小4～6



授業の理解度には大きな差がある

中1～3



【データの出典】文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査」

学力層C 26.5% (小学校4～6年生 授業の内容が難しすぎると思う とてもあてはまる+少しあてはまる)
学力層A 23.2% (小学校4～6年生 授業の内容が簡単すぎると思う とてもあてはまる+少しあてはまる)

【データの出典】文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査」

学力層A 11.1% (中学校1～3年生 授業の内容が簡単すぎると思う とてもあてはまる+少しあてはまる)
学力層C 30.6% (中学校1～3年生 授業の内容が難しすぎると思う とてもあてはまる+少しあてはまる)

出典：文部科学省サポートマガジン『みるみる』
【基本編②】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の意義

【背景】 国の議論（抜粋）

- ＜内閣府 政策パッケージ＞ **同調圧力や正解主義の問題点を指摘**しつつ、「一斉授業からの脱却」「新たな価値創造」「イノベーション創出」「一人一人の多様な幸せ」を実現することが急務。
- ＜中教審 「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について＞ 個別最適な学び、協働的な学びの充実を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみにならず、教師の学びにも求められる命題である。つまり、**教師の学びの姿も、子どもたちの学びの相似形**であるといえる。
- ＜中教審 教科書・教材・ソフトウェアの在り方ワーキンググループ＞ 「デジタル一斉授業からの脱却」これは「**教師が自身の授業観を変えられなければ、いくらICT機器を活用しても、子供は自立した学習者にはなれない**」という指摘。




個別最適な学びと協働的な学び × I C T の活用

＜注目された学習指導法＞

自由進度学習

【研究の目的】

- 2022年の中央教育審議会「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すための方策等の検討の中で紹介された「自由進度学習」の在り方について、実践を通して考察するものである。



「自由進度学習」とは 子供が自分のペースで学びを進めるスタイルのこと

- 一斉授業とは違い、決められた枠組みの中で、子供自身が学習計画を立て、教材や活動を選びながら学びを深めていく
- 個別最適な学び：自分に合った内容やスピードで進められる
- 協働的な学び：必要に応じて友達や先生と関わりながら進める
- 主体性の育成：自分で計画し、試行錯誤しながら学ぶ力が育つ

「自由進度学習」の単元の流れ

「教科の一人学び「自由進度学習」の考え方進め方」 黎明書房 小山儀秋

■ ガイダンス

＊学習の流れを示す ＊個人の課題づくり

■ 学習計画

＊課題追求のための計画（自己調整）

■ 追求


＊課題解決に向けての調査

■ まとめ

＊学習内容・成果の共有 ＊振り返り

「自由進度学習」の教師の姿勢

- 子供に委ねる
 - * 学習者が主体
 - * 授業を一緒に作る
- 単元全体で構成する
 - * ゴールを明確に
 - * 何を学ばせるか
- 環境を整備する
 - * 必要なものを整える（事前、途中）



【実践発表】 自由進度学習への挑戦

【発表者】

仁王小学校

下橋中学校

ここで2校の実践発表となります



【単元名】

- 仁王小学校

- 5年社会「未来をつくり出す工業生産」

- 向中野小学校

- 5年社会「未来をつくり出す工業生産」

- 下橋中学校

- 2年理科「動物のからだのつくりとはたらき」

- 下橋中学校

- 1年数学「図形の移動」

- 城東中学校

- 3年数学「いろいろな関数の利用」



<向中野小学校 自由進度学習への挑戦>

5年社会「未来をつくり出す工業生産」

【目的】

- 自分で学習を進め、学習状況を見つめることを繰り返すことで、教育の最終目的である自律性を育む。
- 多様な子供が、自分に合った学習（個別最適な学び）をすることで、単元の目標である資質・能力を育む。
- 個別の学習をもとにした協働的な学びを行うことで、深い学びを実現する（考えを深める）。



<向中野小学校 自由進度学習への挑戦>

5年社会「未来をつくり出す工業生産」

【手立て】

- 単元に個別最適な学びと協働的な学びを位置付け
- 問いを選択し、解決する活動
(個別最適な学び・自由進度学習)
- 協働的な学びにおけるファシリテーション
- 中核的な概念を獲得する活動
(複数単元の共通点を考える場面)

<向中野小学校 自由進度学習への挑戦>

5年社会「未来をつくり出す工業生産」

【学習計画】全23時間

1	日本の工業生産の今	6時間
2	自動車の生産と運輸に関わる人々	9時間
3	日本の工業生産の未来	8時間

【大まかな流れ】小単位ごとに繰り返す

事象との出会い ⇒ 学習計画

⇒ 個別の学習（個別最適な学び）

⇒ 話し合い（協働的な学び）



<向中野小学校 自由進度学習への挑戦>

取組後に5人の児童にインタビュー

質問1 【児童による評価】

「自由進度学習に取り組んだ感想」

質問2 【内容理解】

「単元を通して学んだこと」

質問3 【学んだ力】

「授業を振り返って、できるようになったこと」

発表では動画が流れます(約2分)

<児童インタビュー>

「自由進度学習に取り組んだ感想を教えてください」

- 児童A：パソコンとかも使えるし、一人でやってるから、一人でできる力とかもつくからいいと思う。
- 児童B：自分で決めた課題とかの範囲を自分で終わらせることができ、先生がやるとちょっと長かったり、範囲が難しくてあんまり進まなかったりっていうことがあったけど、自分で決めれるから一つ一つを終わらせることができた。
- 児童C：自分に合ったペースで学習をしていくことができるから、より考えが深まるなと思ったし、インターネットとか使うことで、より考える輪が広がるからいいなって思いました。
- 児童D：自分のペースでできたし、今回は自分の気になる課題を自分で解決することができたからです。
- 児童E：自分のペースでできるからやりやすかったけど、実際に最後の発表になって、自分のペースでやるから調べてる情報の量が人によってだいぶ差があって、発言の数とかがだいぶ違いました。



質問1 <児童の評価>

「自由進度学習に取り組んだ感想」

【成果】

- 一斉指導と比較して、自分のペースで進められる利点を実感
- 自分が気になる課題を自ら設定し、解決することができた
- 一つ一つのタスクを確実に完了する達成感を得た
- より深い思考ができるようになった
- パソコンを使った調べ学習のスキル
- インターネット検索により考える範囲が広がった

【課題】

- 個人のペースで進めるため、調べる情報量に個人差が生じた



質問2＜内容理解＞

「単元を通して学んだこと」

- 生産者が私たちが使用している製品を作っていること
- 生産者が消費者のために様々な工夫を行い、より良い製品を提供していること
- 配送先の距離や場所に応じて、異なる運搬方法が使い分けられていること
- 生産者の役割と日常生活への影響について
- 両者に責任があることを認識し、協力することでより良い工業生産の未来を築けるという考えに至った



質問3 <学んだ力>

「授業を振り返ってできるようになったこと」

- パソコンの管理方法の習得
- タイピング速度が向上し、テキストを多く入力できた
- 自分の興味のある課題を調べる力が向上
- 課題内容をまとめる力、書く量と内容の深さが向上
- 学習を進めるにつれて詳細な知識を獲得
- 話し合いの場で調査内容を詳しく発表し、議論を活発化させる能力を獲得
- 生産者と消費者双方の責任について、より深く理解できるようになった



【座談会から】

研究員 5 名で座談会を行いました

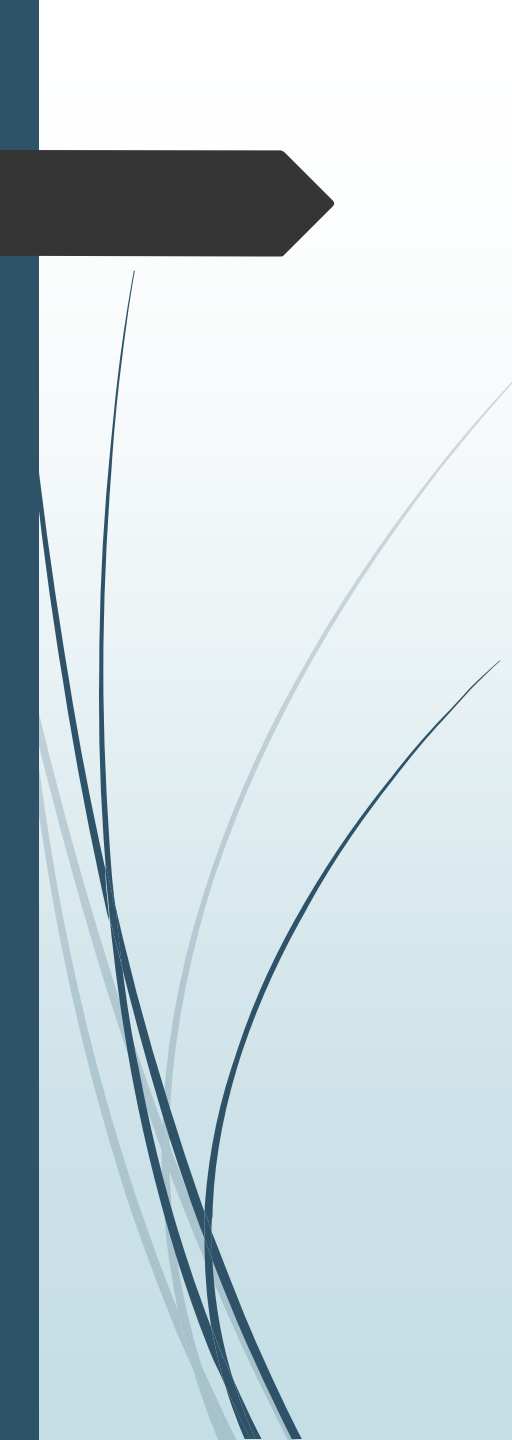
- 1 自由進度学習に取り組んだ感想
- 2 自由進度学習の指導のポイント
- 3 フリートーク
- 4 先生方へのメッセージ

発表では動画が流れます(約8分)

【座談会から】

1 取り組んだ感想を教えてください

- 仁王小 菅原先生：「教師の意図」と「子供の主体性」のバランスを探りながら模索しているが、子供の成長を間近で見られる楽しさを実感している。
- 向中野小 和美先生：自由進度学習は子供の主体性や情報活用力を伸ばし、学びの深まりを生み出すとともに、教師自身にも新しい発見と楽しさをもたらした
- 下橋中 千田先生：教師は「教える人」ではなく、子供たちから学びを得る存在になりたいと考えている。自由進度学習が子供たちに定着している現状を踏まえ、教師自身も学び合う立場へとシフトしていきたい。
- 下橋中 清水先生：自由進度的な学びは教師にとって挑戦的だが、子供の主体性や深い学びを引き出す有効な方法であり、教師は支援と構想力をもって段階的に手を離していくことが重要。
- 城東中 村松先生：自由進度学習は子供の主体性や学び合いを促す効果が大きい一方で、教師の支援や学級経営の基盤がなければ成立しにくく、段階的な導入が必要。



< 1 取り組んだ感想から > 実践の感想と成果

- 全体的な評価

- * 自由進度学習の実践に対して全ての教師が肯定的な評価

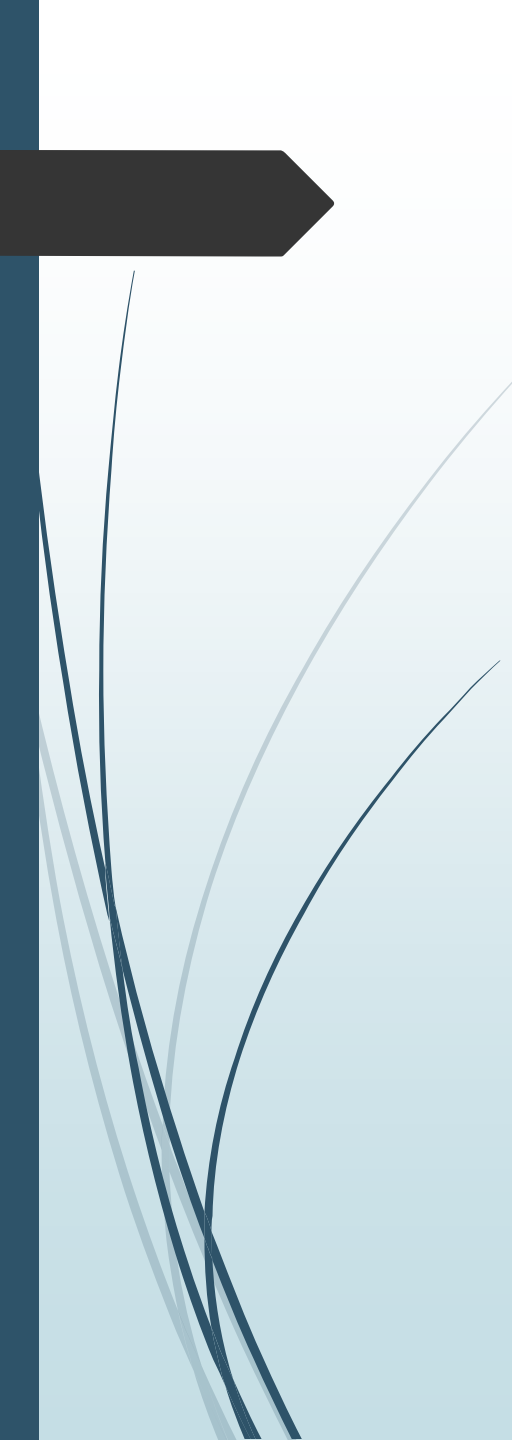
- 子供たちの変化

- * 生き生きとした学習態度

- * 主体的に問題解決に取り組む姿

- * 自然な教え合い・学び合いの発生

- * 情報収集能力と活用能力の向上



< 1 取り組んだ感想から > 実践上の課題

■ 教師の役割の変化

- * 「教える人」から「共に学ぶ人」への立場転換
- * 子供の主体性と教師の指導のバランス調整の困難さ
- * 個別対応と全体把握の両立の難しさ

■ 単元構想の重要性

- * 一度始めると大幅な修正が困難
- * スモールステップでの知識・技能の定着が必要
- * 全単元での実施は困難、部分的な導入が現実的



< 2 指導のポイント >

■ 単元構成の工夫

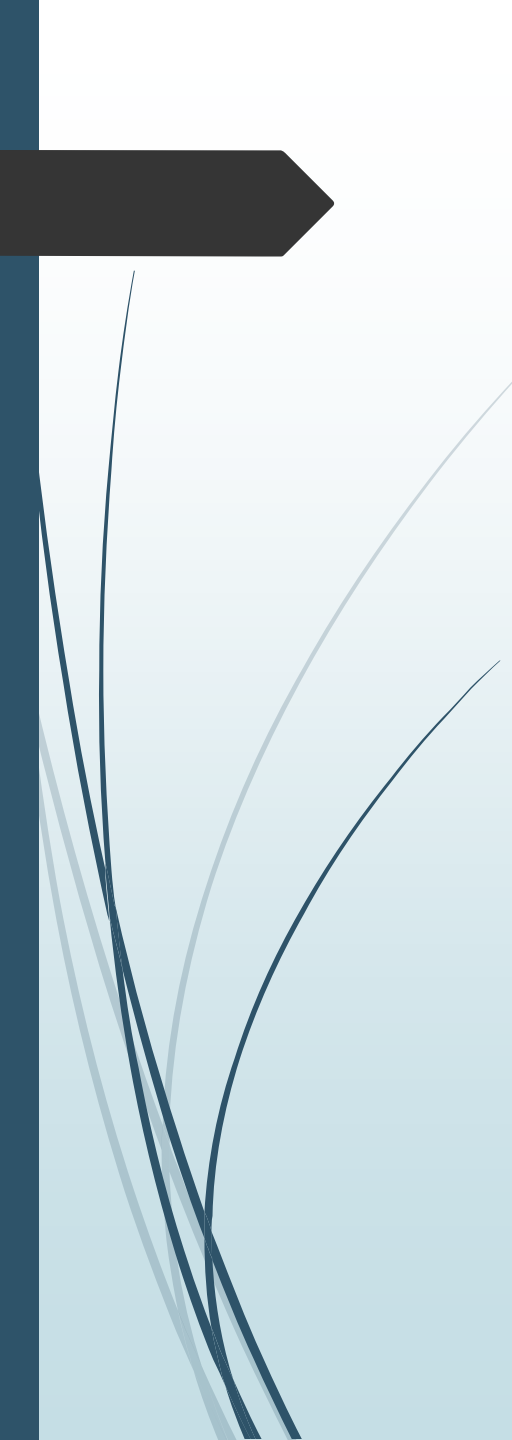
- * 子供たちに学習を委ねる際の単元構成に特に注力
- * 自立した学習が深い学びを実現する考えに基づく単元構成

■ 問いの質向上へ

- * 子供たちの問いと教師が深めたい内容の一致を目指す

■ 自立を目指すために

- * 子供たちへの学習の委任
- * 課題解決の手立ての自己選択
- * 必要に応じた修正と一斉指導の併用



< 3 フリートークから > 教師の立ち位置と声かけ

- 子供たちの間に入り、考えを聞きながら学びを広げる
- 「これってどういうこと？」 「なぜそう考えたの？」 といった問いかけを重視
- 教える側ではなく、同じように問う姿勢で対話を促進
- ゴール像を持ちつつ、問うことで対話を深める
- まとめ方や資料収集のスキルの向上を支援
- 解き方ではなく、解決方法のヒントを提供



< 3 フリートークから >

実践から見た効果と課題

- 学習進度の個別化

- * 最初は時間がかかるが、自分に合ったペースを模索
- * 早く進んだ子供が他の子供を教える仕組みが自然に形成

- 教科書活用の重要性

- * 子供たち同士で教科書を読み解く過程が学習効果を高める
- * 数学では教科書を徹底的に活用

<課題>

- 効果的なICT活用

- 各教科における探究活動の推進

- 子ども同士の教え合いを促進する環境づくりを継続


発表では動画が流れます(約2分)

【座談会から】 先生方へのメッセージ

- 仁王小 菅原先生：まず挑戦することが重要。最初は教師も子供も失敗することが予想される。改善点を次に活かし、子供たちが自分で学び方をアップデートしていく。
- 向中野小 和美先生：教師は「教えないとできない」、子供は「教えてもらわないと不安」という傾向を乗り越える必要性。個のとことんの学びが個別最適な学びであり、共同的な学びの基盤となる。
- 下橋中 千田先生：実践を通じて子供たちが「学ぶ人」としての責任を感じるようになる。一斉指導では受動的になりがちな子どもたちが、自ら学ぶ必要性を感じる。
- 下橋中 清水先生：実践の目的を明確にすることが不可欠。どのような人材を育てたいかという目標を見失わないこと。自由進路学習と一斉指導の相互作用による改善効果。
- 城東中 村松先生：子供の受動的な姿勢から能動的な姿勢への転換。「自らを律する自律」と「自ら立つ自立」の二つの姿を目標とする。



<先生方へのメッセージ>

- 目標は子供が「自立した学習者」となること
 - 子供が「学ぶ責任の自覚」を実感
 - 導入には「目的の明確化と段階的な方法」が必要
 - 授業者には「失敗を恐れず改善する姿勢と挑戦」
- 



【考察とまとめ】

授業に共通して見えたもの

- 何もしない児童生徒がいない
- 児童生徒が質問しやすい
- 何につまづいているか明確にわかる
- 教師が学習する意義や学び方を話す場面が多い



【考察とまとめ】

見直したい思い込み

- 教えればわかる、定着する
- 読めばわかる
- 紙に書かなければ、知識は定着しない
- 他人の解答を見た答えは自分の考えではない



【まとめ】

自由進度学習には授業改善のカギがある

- 子供を信じる覚悟をもつ
- 単元を通して授業を構成する
- デジタル学習環境が未来を照らす
- 柔軟に変える勇気をもつ

本質を外さないことの大切さ

「BE THE PLAYER 自治体丸ごと学びを変える、加賀市の挑戦」

加賀市元教育長 島谷 千春 著 教育開発研究所

- いわゆる「個別最適な学び」の一手法として、学習の進度を個々に委ねる自由進度学習があります。しかし、加賀市がそれを推進したのは、方法そのものを目指したものではありません。子供の学びの苦しさの大きな要因である「みんな一緒に」というペースに縛られる状況を解き放つために進めた結果、自由進度の方法が広がったのです。したがって「これは自由進度学習と呼べるのか」といった議論は、私たちにとっては価値のないものです。